

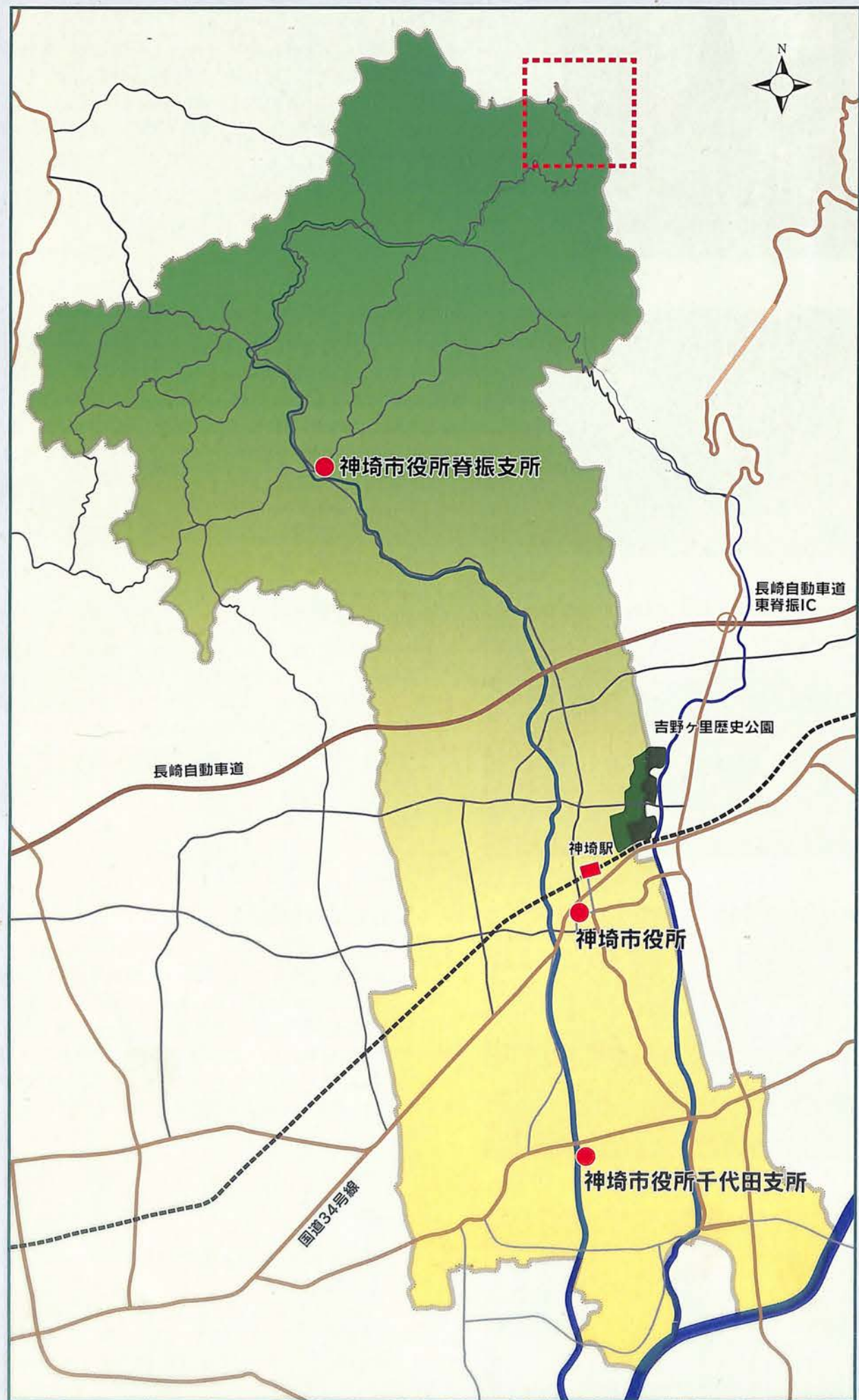
水・人・歴史がおりなす

かんざきを歩こう 散策マップ

発行

神崎市役所 政策推進室

総務企画部
0952(37)0153

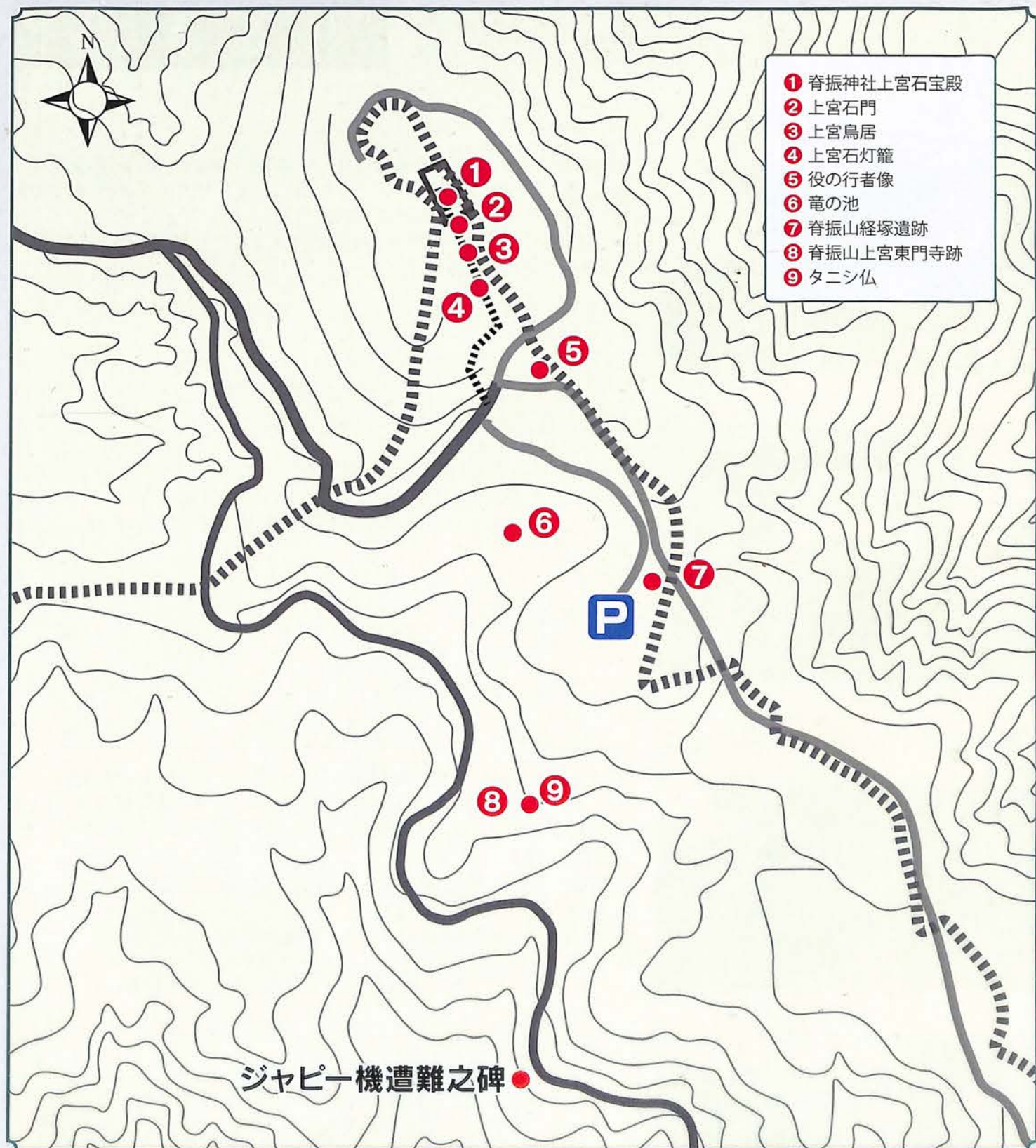


No.12 散策マップの位置と範囲

かんざきを歩こう
No.12

水が生まれる 信仰の山

脊振山 散策マップ



- ① 脊振神社上宮石宝殿
- ② 上宮石門
- ③ 上宮鳥居
- ④ 上宮石灯笼
- ⑤ 役の行者像
- ⑥ 竜の池
- ⑦ 脊振山経塚遺跡
- ⑧ 脊振山上宮東門寺跡
- ⑨ タニシ仏

駐車場

◆ 脊振山公園駐車場(20台ほど)に駐車できます。

コース散策距離

◆ 駐車場より上宮(脊振山頂へ)約350m(高低差約70m)

◆ 駐車場より⑧・⑨は約200m(階段の登り降りルートです。)

水が生まれる 信仰の山 脊振山

脊振山地の最高峰で標高1055mです。山麓からは、円錐形の山容を見ることができ、古くから航海の安全を祈願する信仰の山でした。脊振の名は、「乙天護法善神の像を馬の背に乗せて登るときその馬がしきりに背を振った」また、「乙天護法善神が籠に乗りこの山にさしかかった時に竜が背を振り三度泣いたことから脊振山となった。」などの説があります。山岳信仰の霊場としても栄え、往時には「脊振千坊」と言われるほどでした。山頂に脊振神社上宮が祀られ、石灯籠や役の行者像も残されています。



①脊振神社上宮石宝殿

元禄9年(1696)藩主鍋島綱茂により、福岡藩との国境論争の勝訴を後世に残し、国境を後世に永久に確立させるため、上宮弁財天を石造とし石宝殿を建立しました。石工は、武富清右衛門が当たっています。石宝殿内には、石造の弁財天が祀られ、5月3日に弁財天祭りが開催され、年に1回ご開帳が行われます。



②上宮石門

脊振山上宮弁財天、石宝殿前に建つ石門柱です。柱は方柱形で、唐破風形の冠木かけ左右の門柱を繋いでいます。門柱の左右には、玉垣が連続する構造です。左右に石造の玉垣が連続し、上宮を区画しています。銘文は見られず、年代は不明です。



③上宮鳥居

脊振山上宮弁財天前面に建つ鳥居です。享保6年(1721)に建立されています。明神形式の鳥居で、柱は1石で、笠木と鳥木は中央部で接合される2本継です。笠木は中央部より緩やかに反り始めています。額束は「大辨才天」と刻まれています。

【柱右側】-----
奉建立華表 一基
肥前嘉佐嘉領神埼郡脊振山上宮
大辨才天 御寶前

【柱左側正面】-----
天下泰平 國家安全
■■和順 萬民豊樂
【柱左側裏面】-----
享保六辛丑天十月吉祥■



④上宮石灯籠

元禄9年(1696)藩主鍋島綱茂により、上宮弁財天を石造とし石宝殿の建立に伴い、上宮参道に52基の石灯籠が奉納されています。現在、風雪などにより倒壊した灯籠も多くありますが、当時奉納された石灯籠が参道両側に立ち並んでいます。また、灯籠の他、石段や鳥居・手水鉢・石門などが奉納されています。



⑤役の行者像

脊振山頂直下の航空自衛隊基地内に位置している、修験道の祖師と伝えられる役行者像です。元禄13年(1700)に脊振山の天台衆中と本山派山伏中により建立されています。造立には小城西川と砥川の石工である富永義兵衛と武富幸右衛門が当たっています。脊振山岳信仰・修験道の一部を伝える石造物です。



⑥竜の池

脊振山頂駐車場より少し下がった広場奥にある城原川の源流となる「竜の池」です。「脊振山頂に竜の池あり、池底の石面に金の銘をあらわし竜宮大城に通じて仏法所持の門とす。」「この池の底をかき混ぜると雨が降る。」また、『背振山靈験』には「高々と聳えたる靈岳、其頂に竜池あり。水底の石の面には金の銘を顕せり。竜宮大城に通ずる。」とあり、水神として信仰されていたところ。また、城原川の源流でもあります。



⑦脊振山経塚遺跡

脊振山山頂部に形成された経塚遺跡で、現在航空自衛隊脊振山分屯基地内に所在しています。昭和61年に土砂崩れにより経筒1本が露出したことによりその存在が確認され、昭和62年に将来の保存と活用を目的に当時の脊振村教育委員会により範囲確認調査が実施されました。調査により、多くの経塚の存在が確認されましたが、保存のため埋め戻されています。



⑧脊振山上宮東門寺跡

東門寺多聞坊は、中宮靈仙寺の文明年間に円秀により始まり上宮の別当職を務めています。近世初頭に鍋島家の援助を受け再興され、近世の多聞坊は秀円に始まります。元禄10年(1697)に福岡藩との国境争論に勝訴した佐賀藩は脊振山頂上に石宝殿を建立し、その守りを兼ねて多聞坊は上宮へ登り、東門寺多聞坊が建立されます。約16年間東門寺に所在していますが、風雪厳しく、正徳2年(1712)に中腹の一ノ宮に移転しています。一帯には、東門寺をはじめとする僧坊跡である平場や土塁などが残されています。



⑨タニシ仏

脊振山公園駐車場より南西に約200mほど下った尾根上に位置する旧脊振山東門寺跡に建つ石像です。通称「たにし仏」と呼ばれ、現在も信仰の対象として祀られています。台座は花崗岩の自然石を用いており、像は、岩座上に胡座を組み左足は片膝を立て、左手を置いています。右手は肘を曲げ胸元に組み拳を握り、右手には五鈷鈴を左手には五鈷杵を持地、甲冑を身に着け胸元には瓔珞が見られます。口元は剥落しているが、忿怒の形相を持っています。